

年頭のごあいさつ



壬寅

坂城町長 山村 弘

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

今年の干支は、壬寅（みずのえ）とら・じんいん、そして五黄の寅（ごおうのとら）でもあります。「壬」は、いろいろな問題を持たねばならないということを表し、「寅」は、志を同じくするものが助け合うことを表します。また「五黄の寅」とは、中国発祥の占いの一つ、九星気学において最も強い力を持つ「五黄土星」と、十二支のなかで困難を克服してゆく強い行動力を持つ「寅」の年が重なった、36年に一度の、まさに最強の年であり、コロナ禍のなか、課題をしっかりと把握し、問題解決に向け一致団結し、新

たな時代を築いていくという気概が求められています。

さて、令和2年から引き続きコロナ禍において、当町においても感染症対策の最優先事項として進めてまいりましたワクチン接種につきましては、集団接種と個別接種、また町内企業の皆様の職域接種もあわせて実施され、比較的早期に、多くの方への接種を進めることができました。

今後行うこととされている3回目のワクチン接種につきましても、円滑に実施できるよう、現在準備を進めているほか、今後も、国や県と連携し、新型コロナウイルス感染症に影響を受けた町民の皆様の暮らしや地域経済に対し、きめ細やかな支援に取り組んでまいります。

昨年を振り返りますと、令和3年は、当町のまちづくりの指針となる「第6次長期総合計画」をはじめ、「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」「公共施設個別施設計画」など様々な重要計画がスタートする年でありました。

なかでも、町の最上位計画である第6次長期総合計画におきましては、10年後の町の将来像を「輝く未来を奏でるまち」と定めるなかで、令和12年度までの10年間と、その先の輝く未来につなげていくための、新たな坂城町を

始動させたところであります。

この新たな流れから引き続き本年の大きな動きとしましては、町の基幹産業である工業のさらなる発展のために進めてまいりました新工業団地整備（テクノさかき工業団地の拡張）につきまして、本年に造成を完了し、分譲を開始するよう準備を進めているところであります。

この新工業団地整備と県道坂城インター線の延伸にあわせた町基幹道路の整備といたしまして、町道A09号線の整備を進めていくほか、南条地区の産業道路の拡幅や、今後村上地区で進められていく国道18号バイパス整備の進捗にあわせた町道整備など、将来を見据えた町民生活と企業活動の基盤となる町道の整備を進めてまいります。

また、新たな地域公共交通としてのタクシー車両を利用したデマンド交通導入の実証実験を令和4年度から開始いたします。現在ご利用いただいております町の循環バスとあわせて運用し、より利便性の高い交通網の整備を進めてまいります。

次に、生涯学習とスポーツ活動の拠点の整備といたしまして、坂城町体育館の耐震化を含めた大規模改修に本年着工するほか、文化センターにつきましても、令和5年度に改修を行えるよう、本年には設計に着手

をする予定であります。

びんぐし湯さん館につきましては、本年、開館から20周年を迎えるなかで、老朽化した機械設備等の改修のほか、さらに多くの方から愛される施設としていくための、リニューアル工事を予定しているところであります。

そのほか、コロナ禍においても注目を集めるDX（デジタル変革）の取り組みといたしまして、住民票や税関係の証明書のコンビニ交付サービスの導入や、電子申請の拡充など行政手続き関連のDXのほか、水門の電動・リモート化や、ICTを活用したスマート農業の研究、小・中学校に整備された1人1台端末を活用したICT教育（GIGAスクール構想）の推進など、様々な分野でのDXを進めてまいります。

新型コロナウイルス感染症の今後については、まだ不透明な状況ではありますが、これに屈することなく、ウィズコロナ・アフターコロナの社会にあってなお、将来に渡って持続可能な、誰一人取り残さない社会の実現を目指し、SDGsそして「輝く未来を奏でるまち」の達成に向け、皆様とともに前進してまいります。

町民の皆様におかれましても、本年が良き年になりますようお願いし、新年のごあいさつとさせていただきます。

令和4年 2022 迎春



坂城町議会議長
小宮山 定彦

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

一年前、気軽に人に会ったり、自由に好きなところへ行けるコロナ前の普通の生活、日常が戻ることを願いながら新しい年を迎えたものでした。その願いも空しく昨年一年が過ぎました。「どこまで続く泥濘（ぬかるみ）ぞ」（討匪行）と言ったら大袈裟に過ぎるでしょうが、終わりの見えない重苦しい空気が世の中全体を覆っていた気がします。東京オリンピック・パラリンピックも無観客では氣勢が上がりず、ばら祭り、坂城どんどん、町民運動会など町の各種イベントや行事は軒並み中止、もしくは縮小開催を余儀なくされました。議会活動も先進地行

政視察は制限され、皆様のご意見を伺える貴重な機会である「これからの坂城町を語ろう」議会報告会は2年続けて開催できませんでした。

明るい話題はなかっただろうかと思いついてみると、大リーグを舞台にしたエンゼルスの大谷翔平選手の活躍が思い浮かびます。シーズン中の「ショートタイム」は、オフになっても続きナ・リーグのMVPを始め11冠を受賞しました。野球ファンだけでなく多くの日本人を喜ばせてくれました。また、個人的には、将棋の藤井聡太棋士が棋界最高の棋戦「竜王戦」で豊島竜王を破り4冠目を獲得しました。勝負が決まったその瞬間、思わず快哉を上げました。と同時に終局の時の相手棋士に対する深く長いお辞儀、弱冠19歳の立ち居振る舞いの美しさに心が洗われる気がしました。

そして今、ヨーロッパでは新型コロナウイルスの感染が再拡大の様相を示しています。日本に比べて人口の少ないヨーロッパ各国で一日に数万人の感染者数が報じられています。アルファ、ベータ、ガンマ、デルタなどの変異株に加えオミクロン株などという新たな変異株が出現しました。嘘か真かわかりませんが、この変異株は免疫を回避しワクチンの効果を低下させると懸念されています。このような調子だとそのうち新型コロナウイルスの呼称に使っ

ているギリシャ文字（24文字）が足りなくなってしまうのでは、というの悪い冗談でなくなるかもしれません。

一方、国内では専門家の間にも諸説あり原因は特定されていませんが、ついに「終息」したかと思われるほど鳴りを潜めています。第6波は来ないと言断言することは誰にもできないでしょうが、少なくともここ当分は「収束」状態にあると言えるのではないかと、淡い期待を込めて愚考する次第です。

新型コロナウイルスの脅威があるうと行政が止まるわけにはいきません。昨年は令和3年度から12年度までの10年間にわたる町の最上位計画「第6次長期総合計画」がスタートしました。それに基づいた、より具体的な令和4年度版「実施計画」が3月末までに揃います。農業振興地域整備計画が総合的に見直され、デマンド交通（乗合タクシー）の実証実験も開始、新工業団地の分譲が令和4年度早々に始まり、中心市街地の整備に向けた検討も進められます。葛尾組合ごみ焼却施設に代わって「ちくま環境エネルギーセンター」は、すでに試運転が開始されています。議会としては、執行機関である町が提案した施策を最終的に決定する議決機関としての役割に加えて、進捗状況を不断に注視し町が行う事業が適切

に実施されているかをチェックする監視・評価機関の役割も果たしていかなければなりません。今更のことかもしれませんが、新年は議員一同その職責の重さを自覚し直す良い機会だと思っています。

また、町はICTによるスマートなまちづくりを目指して「チャレンジS A K A K I D X」という名のデジタル変革への取組みを進めております。町村議会議長会でも、ICT化・デジタル化への中・長期構想として「オンライン会議」による委員会の開催、タブレット端末等を活用した議会運営、デジタル化音声認識システムを活用した会議録の作成、インターネットを活用した議会情報の公開や議会中継などが取り上げられています。当議会では、ICT化の一環として昨年12月の定例会より電子採決システムが稼働し始めました。当面は「議会改革等特別委員会」を中心にタブレットの活用を一刻も早く実現したいと考えています。デジタルに弱い私には荷が重たい気がしますが、議員としての資質向上のため臆せず取り組もうと思っております。

結びに、本年が皆様一人ひとりとりまして幸せで実り多い年になりますようお祈り申し上げ、新年のあいさついたします。